

琉球大学学術リポジトリ

日本におけるジオパーク研究の動向と相関用語の整理

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄地理学会 公開日: 2018-11-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 肖, ? メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017745

日本におけるジオパーク研究の動向と関連用語の整理

肖 鋳

(北海道大学大学院生)

I 研究の背景と目的

近年、日本においても、ジオパークを観光客が訪れるようになるという現象やそれを期待した地域振興の研究が行われるようになってきたが、歴史が浅いこともあって、研究対象・方法などに偏りがみられる。さらにジオパークに関連する用語として、「ジオツーリズム」、「ジオガイド」、「ジオストーリー」、「ジオサイト」、「ジオツアー」などが、整理・統合されないまま使われており、この分野の研究に対する理解の妨げになっている可能性も考えられる。

先行研究としては、日本におけるジオツーリズムの展開する可能性について「ジオツーリズムとは何か——わが国におけるその可能性」を発表した横山(2008, 2010)や、ジオパークの研究動向や先行研究を整理した論文としては「ジオパークとジオツーリズムの成立に関する一考察」においてジオパークとジオツーリズムの定義を中心に整理した深見(2010)が挙げられる。

しかし現在、日本で行われているさまざまなジオパーク研究全体の動向を、主として使われているキーワードによって整理した研究は見当たらない。

い。そこで本研究では、文献研究により、日本におけるジオパークに関する研究動向を概観するとともに、関連用語の整理を試みる。

II 研究方法

ジオパークに関わるキーワードとして、「ジオツーリズム」、「ジオガイド」、「ジオストーリー」、「ジオサイト」、「ジオツアー」の5つのキーワードを想定した。

しかし、実際に検索する中で、アンド検索も必要であることが分かり、前者をA群とし、「ジオパーク&地域資源」、「ジオパーク&地域振興」、「ジオパーク&防災教育」、「ジオパーク&観光振興」をB群とする、計9のキーワードで、CiNiiの論文検索と国会図書館(以下NDLと表記)の雑誌記事検索を行った(表1)。

これ以外に、たとえば「地質」というキーワードなども考えられるが、「地質公園」や「地質観光」など分野が異なる記事・論文がほとんどである16件の記事・論文が抽出されてしまうことなどから、本研究では、A群・B群計9のキーワードに限定して、整理することとした。

表1 ジオパークに関する雑誌記事・論文数の検索結果

検索キーワード	A 群					B 群				
	ジオツーリズム	ジオガイド	ジオストーリー	ジオサイト	ジオツアー	ジオパーク&地域資源	ジオパーク&地域振興	ジオパーク&防災教育	ジオパーク&観光振興	
CiNii	本数	59	2	14	56	92	20	44	24	10
	初出	2007	2011	2011	2007	2000	2010	2008	2009	2008
NDL	本数	64	4	11	49	91	20	56	15	8
	初出	2008	2010	2011	2007	2000	2009	2008	2009	2008

(2017年4月20日現在のデータをもとに筆者作成)。

Ⅲ 研究結果

1. 用語の登場時期

CiNii を基準に、A 群のキーワードを見ていくと、「ジオパーク」の初出は 2003 年、「ジオツーリズム」は 2007 年である。ジオパーク活動を直接的に関連する用語であると考えられる「ジオガイド」と「ジオストーリー」は 2011 年、「ジオサイト」は 2007 年、「ジオツアー」は 2000 年に登場した。B 群では、「ジオパーク&地域資源」は 2010 年、「ジオパーク&防災教育」は 2009 年、「ジオパーク&地域振興」と「ジオパーク&観光振興」は 2008 年であった。

2. 検索ワードごとの記事・論文の傾向と特徴

CiNii で検出された記事・論文を基準として、検索ワードごとの傾向や特徴を整理した。学会や大学発行の雑誌に掲載された論文を学術論文としている。

A 群について

ジオツーリズム

「ジオツーリズム」については、渡辺 (2007) や平野 (2007) が初出である。このキーワードで検索された記事の多くは『地学雑誌』や『地図』、『季刊地理学』、『観光学論集』、『人文地理』といった、地域資源の活用や地域観光の発展をテーマにした雑誌に掲載されており、ジオツーリズムを通じたジオパーク誘致による地域経済活性化、地域観光振興などの期待が大きかったことが分かる。

学術論文の中でも、ジオツーリズムは日本における展開する可能性についての研究は、横山 (2008, 2010) と深見 (2013)、澤 (2013) の 4 本であった。

ジオガイド

「ジオガイド」に関する 5 本の論文・記事、4 本は日本地理学会発表要旨集に掲載された要旨であった。具体的に取り上げていた事例は山陰海岸ジオパーク (新名 2010)、島原半島ジオパーク (大野 2011)、阿蘇ジオパーク (渡辺 2011) であった。「ジオガイド」をテーマにする学術論文としては、

表 2 「ジオストーリー」の記事・論文数

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
CiNii	2	1	0	4	3	4
NDL	5	1	0	1	2	2

(2017 年 4 月 20 日現在のデータをもとに筆者作成)。

伊豆半島在住の高校生に対してジオパークのガイド養成過程における大地の成り立ちの理解とその価値を論じた論文のみであった (小山ほか 2011)。

ジオストーリー

「ジオストーリー」は 2011 年から記事・論文数が増加した (表 2)。対象としている事例は、海岸、温泉、火山、湧水などであるが、地場産業を題材とするものも出てきている。ジオストーリー研究の学術論文は、ほとんど『地学雑誌』(6 本)と『観光科学研究』(3 本)に掲載された。地質学と観光学分野の学者が「ジオストーリー」に関心を寄せることが分かった。

ジオサイト

「ジオサイト」について、雑誌記事の初出は 2007 年である。学術論文が 4 本で、そのうち 3 本は安藤・粕川 (2012, 2013, 2014) によるものであった。このほか高橋・尾方 (2010) がある。

ジオツアー

「ジオツアー」に関する 92 本の論文・記事のうち、学術論文は 9 本であった。最も古いのはバイカル地方と日本列島を比較するジオツアーの可能性を論じた研究であった (室田 2000)。千葉県銚子市において「銚子ジオツーリズム」を提案した研究 (安藤・粕川 2011) や渡名喜島におけるジオツアーの試行に関する議論も出た (田代・伊藤 2011)。

B 群について

「ジオパーク&地域資源」

「ジオパーク&地域資源」の初出は 2009 年で、20 本が抽出されたが、A 群との重複を除外し、さらに学術論文に絞ると 10 本になる。このうち、ジ

ジオパークに関する事例研究は「山陰海岸ジオパーク」を扱った小寺（2011）及び先山・松原、三田村（2012）、「糸魚川ジオパーク」を扱った坂口・飯塚・菊地（2015）の3本であった。

「ジオパーク&地域振興」

「ジオパーク&地域振興」の初出は2008年で、44本が抽出されたが、A群との重複や分野違いのものを除外し、さらに学術論文に限定すると、地質観光情報の開発と利用による地域振興を論じた細井・滝本・岡本（2009）、事例研究としてのオーストラリア（菊地・有馬 2011）、糸魚川ジオパーク（竹之内 2011）、島原半島ジオパーク（大野 2011）、スペイン・ピレネー山脈のソブラルベジオパーク（河本 2014）、山陰海岸ジオパーク（石川 2016）などの7本が該当した。

「ジオパーク&防災教育」

「ジオパーク&防災教育」の初出は2009年で、24本論文・記事が該当する。このうち、日本火山学会講演予稿集には10本記事が掲載された。重複や分野違いなどを除外し、学術論文に絞ると4本が抽出され、このうち1本が島原半島ジオパークを取り上げていた。

「ジオパーク&観光振興」

「ジオパーク&観光振興」の初出は2008年で、

10本論文・記事が該当する。学術論文としては、観光学で注目されているダークツーリズムの概念を紹介し、ジオパークにおけるダークツーリズムの適用可能性について考察する論文1本のみである（鈴木 2014）。

3. 実証研究論文数と調査対象

ジオパークについての事例研究や実証研究と考えられる学術論文数を抽出した（表3）。全34本のうち、ジオツーリズム分野が8本と24%を占める。

さらにこれらの論文における調査研究の主な対象を、①ジオパーク ②観光者 ③地域住民 ④その他で分類した（表4）。ほとんどの論文で、ジオパー

表3 事例研究や実証研究の学術論文数

	検索キーワード	事例研究論文数
A群	ジオツーリズム	8
	ジオガイド	1
	ジオストーリー	5
	ジオサイト	2
	ジオツアー	6
B群	ジオパーク&地域資源	3
	ジオパーク&地域振興	7
	ジオパーク&防災教育	1
	ジオパーク&観光振興	1

（2017年4月20日現在のデータをもとに筆者作成）。

表4 調査・研究の対象

検索キーワード	ジオパーク	観光者	地域住民	そのほか
ジオツーリズム	3	1	2	2
ジオガイド				1
ジオストーリー	4			2
ジオサイト	2			
ジオツアー	4	2		1
ジオパーク&地域資源	4		2	
ジオパーク&地域振興	6		1	1
ジオパーク&防災教育	1			
ジオパーク&観光振興				1

注：1本の論文で異なる対象を調査しているものがあり、表3の論文数とは必ずしも一致しない。

（2017年4月20日現在のデータをもとに筆者作成）。

クや地域住民を対象にした調査が行われているが、観光者やジオガイドを対象にした調査は少ない傾向が読み取れる。

4. 用語の整理

ジオパークに関連する用語であると考えられる「ジオツーリズム」、「ジオストーリー」について、初期の学術論文から、その定義を整理した。

平野 (2008) は、「ジオツーリズム」について、「地質や自然に対する興味や関心と明確なテーマを持った子供や市民がフィールドを訪れ、現地の地質や自然の実物・本物に触れて感じ、学び、遊び、楽しみ、体験し、オンサイトインフォメーションを取得することを目的とした地質ジャンルのオンサイトツーリズム」(p.64) という定義を用いている。横山 (2010) は、「ジオツーリズム」を「地球の遺産を、経験し、学び、楽しむための旅行をする」と主張した。河本 (2011) は「Geo as Eco」と表現し、「ジオツーリズム」を「地球科学的 (地学的) 資源を主たる対象とするエコツーリズム」ととらえることを提唱する。

「ジオストーリー」の定義について、天野ほか (2011) は、「地質的な現象の相互作用、関連性を説明する地質的なストーリー」を定義した。もう一つ定義は、「地形・地質とその上にのる生態系や人々の暮らしを関連づける地理的なストーリー」である (大野 2011, 井上ほか 2012)。

さまざまな論文を検討したが、用語の定義なしに用いている論文が、思いのほか多かったことも、自戒をこめて記述しておかなければならないと考える。

IV 考 察

以上の研究結果から、ジオパークについての研究は、「ジオツーリズム」分野を除けば、学術論文がまだまだ少ないことが分かった。事例研究や実証研究となると、さらに限られる。

深見 (2014) は、「地域にとってジオツーリズムの活動をより加速させる効果が期待される」と述

べ、さらに「地域住民が、自地域がジオパークに登録されることと、ジオツーリズムが積極的に展開されることに対してどのような意思を有しているか、また、それがどのように反映されてきたかが注目される機会は意外に少ない」(p.30)とも指摘しているが、これはジオツーリズムに限ったことではなく、より多くの事例を研究する必要がある。そして「誰が顧客なのか?」、「何を求めて訪れるのか」というマーケティング視点なしに観光客誘致が成功しないとするならば、政策論的・観光開発論的な視点からの研究でも、観光者を対象とした研究の一層の積み重ねが求められる。

また、ジオパークに関連する用語の定義をごく簡単に整理したが、この分野の研究をさらに深めるためには、用語の整理・統合も必要と考える。

(受付 2017年3月10日)

(受理 2017年6月20日)

文献

- 安藤生大・粕川正光 (2011) : 銚子ジオツーリズムの提案 : 屏風ヶ浦ジオツアーの内容と効果. 千葉科学大学紀要, 4, 1-10.
- 安藤生大・粕川正光 (2012) : 千葉県銚子市のジオサイトを利用した体験型地学教育の効果. 千葉科学大学紀要, 5, 1-14.
- 安藤生大・粕川正光・銚子 (2013) : ジオパークの屏風ヶ浦ジオサイトを利用した体験型地学教育の効果. 千葉科学大学紀要, 6, 75-87.
- 安藤生大・粕川正光 (2014) : 銚子ジオパークの屏風ヶ浦ジオサイトを利用した体験型地学教育の効果 (その2). 千葉科学大学紀要, 7, 11-23.
- 天野一男・松原典孝・細井 淳・本田尚正・小峯慎司・伊藤太久 (2011) : 茨城県北ジオパーク構想での茨城大学の活動 : ジオパーク推進における大学の活動例. 地学雑誌, 120, 786-802.
- 岩松 暉 (2007) : 今なぜジオパークか. 地質ニュース, 635, 8-14.
- 石川宏之 (2016) : 持続可能な地域の発展に地域遺産を活かすジオパークの経緯と活動における大学や博物館の連携

- 体制のあり方：山陰海岸ジオパーク推進協議会を事例として。博物館学雑誌, 41, 2, 1-12.
- 井上素子・町田尚久 (2012) : 「ジオパーク秩父」を歩く：秩父市街地の湧水をめぐるジオストーリー。地図中心, 483, 10-13.
- 小寺倫明 (2011) : 地域資源活用による地域経済活性化の可能性：山陰海岸ジオパークを活用した地域づくりに関する一考察。商大論集, 63, 121-142.
- 大野希一 (2011) : ジオツーリズムの実例と課題～島原半島ジオパークの例。日本地理学会発表要旨集, 259-259.
- 大野希一 (2011) : 大地の遺産を用いた地域振興：島原半島ジオパークにおけるジオストーリーの例。地学雑誌, 120, 5, 834-845.
- 河本大地 (2011) : ジオツーリズムと地理学発「地域多様性」概念：「ジオ」の視点を持続的地域社会づくりに活かすために。地学雑誌, 120, 775-785.
- 河本大地 (2014) : スペイン・ピレネー山脈のソプラルベジオパークにおける行政主導型マネジメントの意義と課題。E-journal GEO, 9 (1), 50-60.
- 菊地俊夫・有馬貴之 (2011) : オーストラリアにおけるジオツーリズムの諸相と地域振興への貢献。地学雑誌, 120(5), 743-760.
- 小泉武栄 (2011) : ジオエコツーリズムの提唱とジオパークによる地域振興・人材育成。地学雑誌, 120 (5), 761-774.
- 小山真人・村越 真・上西智紀 (2011) : ジオパークのガイド養成過程における大地の成り立ち の理解とその価値への気付き：伊豆半島在住の高校生に対するケーススタディー。静岡大学教育実践総合センター紀要, 19, 11-18.
- 澤 義明 (2013) : 中山間地域におけるジオ・ツーリズムの可能性。奈良大学大学院研究年報, 18, 141-142.
- 下里直生・菊地俊夫 (2016) : ジオパークにおける時空間的ジオストーリーの地域融合への貢献：石川県・白山手取川ジオパークを事例にして (東秀紀教授退職記念号) 観光科学研究, 9, 33-39.
- 坂口 豪・飯塚 遼・菊地俊夫 (2015) : ジオパークにおける酒造業を取り込んだジオストーリーの構築：糸魚川ジオパークを事例にして。(本保芳明教授退職記念号) 観光科学研究, 8, 115-123.
- 坂口 豪 (2016) : ジオパーク秩父における地質学的な視点および地理学的な視点の相互関連性によるジオストーリーの構築。(東秀紀教授退職記念号) 観光科学研究, 9, 131-139.
- 先山 徹・松原典孝・三田村宗樹 (2012) : 山陰海岸におけるジオパーク活動：大地と暮らしのかかわり。地質学雑誌, 118, S1-S20.
- 新名阿津子 (2010) : 山陰海岸ジオパークにおける地域振興と住民活動。日本地理学会発表要旨集, 129-129.
- 鈴木晃志郎 (2014) : ダークツーリズムの視点からみたジオパーク, ジオツーリズムの可能性 E-journal GEO, 9 (1), 73-83.
- 高橋 巧・尾方隆幸 (2010) : 「ガンガラーの谷」ガイドツアーとジオサイトとしての可能性。沖縄地理, 10, 35-40.
- 室田 武 (2000) : バイカル地方と日本列島を比較するジオツアーの可能性：ワールドワイドビジネスの環境経済的考察に向けて。同志社大学ワールドワイドビジネスレビュー, 1 (1), 63-91.
- 田代 豊・尾方隆幸 (2012) : 沖縄島北部で実施したジオツアー参加者の意識。沖縄地理, 12, 17-24.
- 田邊 裕 (2008) : ジオパークに望むこと——人文地理の立場から。地理, 53 (9), 55-57.
- 滝本春南・細井 淳・岡本高幸 (2012) : 地域振興を目標とした地質観光情報の開発と利用の試み——茨城ジオパーク設立を目指して。(総特集ジオパーク1：地球科学がつくる持続的な地域社会) 月刊地球, 31 (7), 394-401.
- 竹之内 耕 (2011) : 糸魚川ジオパークと地域振興, 地学雑誌, 120 (5), 819-833.
- 寺井邦久 (2015) : 島原半島ジオパークを活用した防災教育 地学教育と科学運動, 74, 3-8.
- 平野 勇 (2007) : 美しき日本の国造り, 地域造り, 地人造りとしてのジオパークの提言。(特集 ジオパーク) 地質ニュース, 635, 45-65.
- 平野 勇 (2008) : 『ジオパーク——地質遺産の活用・オンサイトツーリズムによる地域づくり——』株式会社オーム社.
- 深見 聡 (2013) : ジオパークとジオツーリズムの展望：日本と中国の事例から。人文地理, 65 (5), 58-70.

- 深見 聡 (2014) : 『ジオツーリズムとエコツーリズム』古今書院.
- 柚洞一央・新名阿津子・梶原宏之・目代邦康 (2014) : ジオパーク活動における地理学的視点の役割. E-journal GEO, 9, 13-25.
- 楊 燕・深見 聡 (2013) : 中国のジオパークにおけるジオツーリズムの現状と課題 : 伏牛山世界ジオパークの事例から, 地域生活学研究, 4, 12-24.
- 横山秀司 (2008) : ジオツーリズムとは何か——わが国におけるその可能性. 日本観光研究学会全国大会学術論文集, 23, 345-348.
- 横山秀司 (2010) : ジオツーリズムとは何か. (総合観光学会編) 『観光まちづくりと地域資源活用』同文館出版, 115-129.
- 渡辺真人 (2007) : 日本にもジオパークを設立しよう. 日本地質学会学術大会講演要旨, 2007 (0), 56-56.
- 渡辺一徳 (2011) : 阿蘇ジオパークの活動. 日本地理学会発表要旨集, 100065-100065.